

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学概論	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】外村由美子	【開講時期】通年 【配当年次】1年
【所属・職位等】都城医療センター附属看護学校	専任教員(看護師15年)

【授業における到達目標】

1. 成人各期にある対象を身体的、精神的、社会的側面から理解し、成人期の健康問題と看護の役割を理解する。
2. 成人各期の特徴と発達課題、生活について理解し、健康レベルに応じた看護について理解する。

【授業の概要】

成人を取り巻く現代社会での個人の発達、健康に関する状況をもとに、成人期の人々が暮らす社会環境と健康維持について学習を深める。また、成人期の人々の健康障害に視点を置き、急性期看護、慢性期看護、終末期の看護の各健康段階に応じた看護の基礎知識を習得し、成人看護方法論の科目につなげる。看護の概念に関しては、エンパワメント、ストレス・コーピング、セルフケア等の考え方を知って対象の理解を深める。

【アクティブ・ラーニング】

学生の主体的な学習を進めるために、講義では学生が考え発言する機会をつくり、グループディスカッションを取り入れる。グループワーク・発表を通して発信力・協調性・傾聴力を高められるよう学習をすすめる。

【授業計画】

回数	内容（方法）
1回目	成人看護の対象（講義）
2回目	成長発達過程からみた成人の特徴～青年期（講義・グループワーク）
3回目	成長発達過程からみた成人の特徴～壮年期（講義・グループワーク）
4回目	成長発達過程からみた成人の特徴～向老期（講義・グループワーク）
5回目	成人を取り巻く社会環境と生活（講義）
6回目	成人の健康の動向（講義）
7回目	成人各期の特徴的な健康問題（講義）
8回目	成人各期の特徴（グループディスカッション）
9回目	成人を対象とした保健医療福祉対策（講義）
10回目	成人期の健康生活を育む看護～ヘルスプロモーション（講義）
11回目	健康障害をもつ成人に関わる基本的な視点（講義）
12回目	健康レベルに対応した看護～急性期の看護（講義）
13回目	健康レベルに対応した看護～慢性期・回復期の看護（講義）
14回目	健康レベルに対応した看護～終末期の看護（講義）
15回目	成人期にある人の療養の場と退院支援（講義）

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 80% (80 点)

小テスト・課題レポート 20% (20 点)

【テキスト】

成人看護概論・成人保健

メヂカルフレンド社

国民衛生の動向

厚生労働統計協会

【参考文献】**【授業外における学修方法及び時間】**

1. 成人各期の特徴について、課題を提示するため、事前課題に取り組む。内容についてはグループでまとめ時間内に発表し、内容を共有する。
2. 授業終了後に配布する課題に基づいて復習して、授業内容の理解を深める。次回の授業時に課題を提出し、授業開始時に小テストを行うので準備しておく。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護方法論Ⅰ（慢性の経過をたどる成人の患者の看護）

【単位数・時間】2単位（60時間）

【担当講師】外村由美子¹⁾・亀元美紀²⁾・東紗穂³⁾・栗林民子⁴⁾・清水和彦⁵⁾・徳富明菜⁶⁾

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】1)専任教員 2)6)都城医療センター副看護師長

3)4)宮崎東病院副看護師長 5)都城医療センター看護師

【授業における到達目標】

1. 慢性期における成人の特徴と看護について理解することができる
2. 慢性期における成人期の糖尿病の事例をもとに看護問題を明らかにし、看護計画・支援計画を作成・実施することができる
3. 生涯にわたり身体機能障害を受けたことによっておこる成人の特徴と看護について理解することができる

【授業の概要】

慢性疾患や難病により、症状をコントロールし病気と共に生活を送るために、対象の心理・社会的変化を理解し、セルフマネジメントするための援助方法及び家族への支援について学ぶ

健康障害により日常生活が規制され、生涯にわたり身体機能障害とともに生きる対象の心理・社会的変化を理解し、身体機能障害への適応、残存機能の維持、社会復帰への援助方法及び家族への支援について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

学生の主体的な学習を進めるために、講義では学生が考え発言する機会をつくり、グループディスカッション、演習、ロールプレイを取り入れる。グループワーク、発表、演習を通して自己評価・他者評価を行い、学習を深めていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）	
1回目	慢性期にある成人の特徴と看護の役割（講義）～行動変容を促す支援・	外村
2回目	慢性期にある成人を理解するための概念・看護の概念（講義）	外村
3回目	肝機能障害を持つ患者の特徴と看護の役割（講義）	院内講師（亀元）
4回目	検査を受けるときの看護（講義）	院内講師（亀元）
5回目	治療処置を受ける患者の看護（講義）	院内講師（亀元）
6回目	肝機能障害を持つ患者の看護（講義）～自己概念の揺らぎのある患者の看護	院内講師（亀元）
7回目	糖尿病患者の看護過程の展開（講義）	外村
8回目	糖尿病患者の看護過程の展開（講義）	外村
9回目	糖尿病患者の支援計画の立案（演習）	外村
10回目	糖尿病患者の支援計画の実際（ロールプレイ）	外村
11回目	感染症・結核である患者の看護（講義） ～療養生活の長期化により自立や社会復帰への意欲の減退	院外講師（東）
12回目	結核感染症の治療・看護の現状ト政策医療・看護（講義）	院外講師（東）
13回目	筋ジストロフィー患者の特徴と看護（講義） ～自己概念の揺らぎ・ボディイメージの変容	院外講師（栗林）

14 回目	筋ジストロフィー患者の治療・看護の現状と政策医療・看護（講義）	院外講師(栗林)
15 回目	校外学習 筋ジストロフィー患者の看護の実際	院外講師(栗林)
16 回目	生涯にわたり身体機能障害とともに生きる患者の特徴と看護の役割（講義） ～障害受容と価値の転換	外村
17 回目	生涯にわたり身体機能障害とともに生きる患者の看護（講義）	外村
18 回目	腎機能障害患者の特徴と看護の役割（講義）	院内講師(清水)
19 回目	検査を受ける患者の看護（講義）	院内講師(清水)
20 回目	治療・処置を受ける患者の看護（講義）	院内講師(清水)
21 回目	腎不全患者の看護（講義）	院内講師(清水)
22 回目	喉頭摘出の受ける患者の特徴と看護の役割（講義）～自己概念の揺らぎ・ボディイメージの変容	院内講師(徳富)
23 回目	手術療法を受ける患者の看護（講義）	院内講師(徳富)
24 回目	放射線療法を受ける患者の看護（講義）	院内講師(徳富)
25 回目	女性生殖器機能障害（乳癌）をもつ患者の看護（講義）	外村
26 回目	女性生殖器機能障害（子宮がん）をもつ患者の看護（講義）	外村
27 回目	女性生殖器機能障害をもつ患者の特徴と看護（講義）～ボディイメージの変容	外村
28 回目	関節リウマチ患者の特徴と看護の役割（講義）～ボディイメージの変容	外村
29 回目	関節リウマチと手術療法（講義）	外村
30 回目	関節リウマチの基礎療法とリハビリテーション（講義）	外村

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験について 200 点配点とする。具体的には、1 回目～15 回目の内容で 100 点満点、16 回目～30 回目の内容で 100 点満点とする。ただし 1 回目～15 回目の試験内容では、アセスメントの実際、支援計画の立案に 25 点、その他の内容で 75 点配点

科目の評価は、それぞれ 1 回目～15 回目、16 回目～30 回目の試験の平均点とし、これが 60 点に満たない場合は、再試験とする。再試験においては、アセスメントの実際及び支援計画も追加修正を行い、すべてのオムニバスの範囲について再試験とする。

【テキスト】

1～15 回目 経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社
16～30 回目 看護テキストシリーズ NiCE リハビリテーション看護 南江堂

【参考文献】

3～6 回 系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 (医学書院)
11～12 回 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院)
13～15 回 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー-膠原病感染症 (医学書院)
18～21 回 系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)
22～24 回 系統看護学講座 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 (医学書院)
系統看護学講座 成人看護学[15] 歯・口腔 (医学書院)
25～27 回 系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院)

28～30回 系統学看護学講座 成人看護学[10] 運動器 (医学書院)
系統学看護学講座 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 糖尿病の事例を用いて、看護過程展開及び支援計画立案に関する事前課題を提示するため、事前課題に取り組む。
使用教材：DVD 看護のためのアセスメント事例集 vol13「糖尿病教育入院患者の看護事例をもとに、アセスメントの実際を行う。
2. 成人期にある筋ジストロフィーの患者の看護の実際については、NHO 宮崎東病院 NHO 南九州病院で学ぶ。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護方法論Ⅱ（急性期の看護）

【単位数・時間】2単位 45時間

【担当講師】船木 見奈子¹⁾ 外村由美子²⁾ 熊谷 絵美³⁾ 平野 香奈⁴⁾

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】専任教員（看護師 11年¹⁾ 専任教員(看護師 15年)²⁾ 藤元総合病院 看護師³⁾ 都城医療センター 副看護師長 皮膚排泄認定看護師⁴⁾

【授業における到達目標】

1. 脳血管障害のある対象及び家族の治療・検査、看護について理解できる
2. 熱傷を負った対象及び家族の看護を理解できる。
3. 手術を受ける対象及び家族の身体的・社会的・精神的特徴について理解できる
4. 心筋梗塞を発症した対象及び家族の検査・治療・看護について理解できる
5. 甲状腺手術をうける対象及び家族の術前から術後の看護について理解できる
6. 直腸切除、人工肛門造設術を受ける対象及び家族の看護を理解できる

【授業の概要】

1. 手術や事故による機能・形態の変化を理解し、健康回復を促進するための看護を学ぶ
2. 手術を受ける対象及び家族の手術前・手術中・手術後の看護を理解できる

【アクティブ・ラーニング】

講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

事例を用いたペーパーシミュレーションでは、グループワークを行い、全体発表、検討会を行う。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当
第1回	脳血管障害を発症した対象の特徴	熊谷
第2回	脳血管障害を発症した対象の検査、治療。看護	
第3回	手術を受ける対象の術前の看護	
第4回	手術を受ける対象の術後と健康回復への看護	平野
第5回	熱傷の病態、治療の特徴	
第6回	受傷部の処置、ショック期・回復期の身体的・心理的・社会的特徴と看護、感染予防、栄養管理、退院支援	船木
第7回	周手術期看護の特徴、手術に向けた身体の準備、心理的特徴	
第8回	手術直後の看護 術直後のモニタリング（呼吸・循環・体温）、術後合併症予防の看護（呼吸器合併症・循環器合併症、イレウス・術後感染症・縫合不全、深部静脈血栓症・肺塞栓症・術後せん妄）	
第9回	胃切除を受ける対象と家族の理解と看護	
第10回	胃切除を受ける対象と家族の理解と看護	
第11回	胃切除を受ける対象と家族の理解と看護	
第12回	胃切除を受ける対象と家族の理解と看護術後合併症予防の看護	
第13回	循環機能障害のある対象の特徴、心筋梗塞を発症した対象のアセスメント	外村

第14回	心筋梗塞を発症した対象の治療・検査の目的、看護	
第15回	心筋梗塞を発症し、手術をうける対象の術前の看護と家族への看護	
第16回	心筋梗塞を発症し、手術を受ける対象の術後から回復過程への看護と家族への看護	
第17回	内分泌器官の機能障害から生じやすい心理・社会的問題、看護の目的・役割	船木
第18回	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症の症状に対する看護	
第19回	甲状腺手術を受ける対象の術前・術後の看護	
第20回	消化・吸収障害のある対象の特徴と看護 検査（透視、内視鏡）をうける対象の看護	船木
第21回	人工肛門造設前の看護	
第22回	人工肛門造設後の術後合併症予防の看護 人工肛門のケアの実際 社会復帰に向けた援助	

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

終了試験は授業で教授した内容から出題する

【評価方法】

評価は、筆記試験及びパフォーマンス評価で判定する

【テキスト】

経過別成人看護学 周術期看護 メヂカルフレンド社
成人看護学 周手術期看護論 第3版 ヌーヴェルヒロカワ
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳神経 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 医学書院
臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院

【参考文献】

新体系 看護学全書 脳神経 メヂカルフレンド社
成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂
病気がみえる 脳・神経メディックメディア
新体系 看護学全書 皮膚 メヂカルフレンド社
病気がみえる 皮膚 メディックメディア
病気がみえる 消化器メディックメディア
新体系 看護学全書 循環器 メヂカルフレンド社
病気がみえる 循環器 メディックメディア
新体系 看護学全書 内分泌 栄養・代謝 メヂカルフレンド社
病気がみえる 糖尿病・代謝・内分泌 メディックメディア
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 医学書院
新体系 看護学全書 消化器 メヂカルフレンド社
病気がみえる 消化器 メディックメディア
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

1. ナーシングチャンネル 第11巻 第12巻 第13巻 神経系
2. ナーシングチャンネル 第4巻 皮膚と粘膜
3. ナーシングチャンネル 周手術期看護
4. 次回の講義に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する
5. ナーシングチャンネル 第7巻 第8巻 循環系
6. ナーシングチャンネル 第17巻 内分泌系
7. ナーシングチャンネル 第18巻 消化器系

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護方法論Ⅲ

(終末期看護および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴と看護)

【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】間宮みどり¹⁾ 児玉みゆき²⁾ 清武香³⁾ 福田幸子⁴⁾

【所属・職位等】1) 専任教員(看護師12年)

2) がん性疼痛看護認定看護師

3) 緩和ケア認定看護師

4) 看護師

【開講時期】第2学期

【配当年次】2年

【授業における到達目標】

1. 終末期看護及び緩和ケアを必要とし、地域に暮らす生活者としての成人とその家族の特徴を理解する。
2. 終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人の全人的苦痛を理解する。
3. 終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人とその家族のこころの在り様を理解する。
4. 終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人とその家族を支える看護について理解する。
5. 人の尊厳とは何かを理解し、その人らしく最期まで生きることの意義を考える。

【授業の概要】

終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人とその家族を支えるために、人間の尊厳を考え、最期まで生きることを支えるケアについて学習する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたペーパーシミュレーションではグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・テーマに基づいて事例検討会を行い、自らの考えや価値観を深める機会とする。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当
第1回	終末期にある患者の理解：死の理解 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴 地域に暮らす生活者としての理解	間宮
第2回	終末期にある患者の看護1 終末期看護、緩和ケアの現状とセーフネット分野の医療 病院から在宅へ移行する終末期にある患者への退院支援と看護の役割	児玉
第3回	終末期にある患者の看護1 症状マネジメント 包括的アセスメント	清武
第4回	終末期にある患者の看護1 緩和ケア がん性疼痛看護	児玉
第5回	終末期にある患者の看護2 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人の特徴と看護 ・血液疾患患者とその家族の特徴	清武
第6回	終末期にある患者の看護2 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人の特徴と看護 ・血液疾患により検査や処置を受ける患者の看護	清武

回数	内容・方法	担当
第7回	終末期にある患者の看護2 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人の特徴と看護 ・血液疾患患者の生活の理解と看護の実際	清武
第8回	終末期にある患者の看護3 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人の特徴と看護 ・神経難病患者とその患者の家族の特徴	福田
第9回	終末期にある患者の看護3 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人の特徴と看護 ・神経難病患者とその患者の家族看護	福田
第10回	終末期にある患者の看護3 終末期看護および緩和ケアを必要とする成人の特徴と看護 ・神経難病患者の生活の理解と看護の実際 (校外授業にて患者の生活および看護の実際を学ぶ。)	福田
第11回	終末期看護および終末期にある成人、および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴 ・がんにより終末期にある患者とその家族の全人的苦痛のアセスメントとマネジメント(看護過程については、ロイ適応モデルの様式を一部使用し、アセスメント、看護計画などを展開する。)	間宮
第12回	終末期にある成人、および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴 ・予期的悲嘆に対するアセスメントとケア	間宮
第13回	終末期にある成人、および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴と看護 ・苦痛緩和と意思決定支援 ・アドバンスケアプランニング	間宮
第14回	終末期にある成人、および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴と看護 ・看取りを迎える家族へのケア ・テーマ:「終末期にある患者や家族のこころの在り様」(グループワーク・全体発表)	間宮
第15回	終末期にある成人、および緩和ケアを必要とする成人とその家族の特徴と看護 ・臨死期の看護、グリーフケア ・テーマ:「人の尊厳とは何か、その人らしく最期まで生きることの意義」(グループワーク・全体発表)	間宮

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

評価計画の通りとする。但し、看護過程のレポートについては60点配点のうち、レポート課題について60%とする。

終了試験 100% (100点)

【テキスト】

新体系看護学全書 経過別成人看護学4 終末期看護 メジカルフレンド
看護学テキストシリーズ NiCE 緩和ケア 改訂版第2版 南江堂

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

15時間の自己学習時間は校外授業、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、文献講読、看護過程の展開等の課題に取り組む。

専門分野Ⅱ

【科目】 老年看護学概論	【単位数・時間】 1 単位(30 時間)	
【担当講師】 草原 麻紀	【開講時期】 第 1 学期	【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 専任教員	【実務経験】 看護師 11 年	

【授業における到達目標】

老年期にある対象の特性及び対象のおかれている状況について理解し、老年期の健康障害と看護の役割を理解する

【授業の概要】

①加齢変化 ②高齢者の保健・医療・福祉の動向 ③家族の機能と看護 ④老年看護の倫理 の視点について、講義やグループワーク・全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・ 事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・ 授業においては、自らの考えを発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	老年期の対象である高齢者の理解
第 2 回	
第 3 回	加齢変化のアセスメント
第 4 回	
第 5 回	
第 6 回	高齢者疑似体験（演習）
第 7 回	超高齢社会の現状
第 8 回	高齢者の保健・医療・福祉の動向
第 9 回	
第 10 回	家族の機能と看護
第 11 回	
第 12 回	老年看護の倫理
第 13 回	
第 14 回	老年看護の特徴
第 15 回	

【試験・課題等の内容】

高齢者の理解を深めるために高齢者のライフサイクルを調べる課題等を示す
グループワークで活発な意見交換を行い学びを深めるために、調べ学習やレポートなどの課題を示す

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
老年看護学 概論と看護の実践 NOUVELLE HIROKAWA
国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会
国民の福祉と介護の動向 2019/2020 厚生労働統計協会

【参考文献】

系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 [3] 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野Ⅱ

【科目】老年看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】後藤 広行	【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員（看護師16年）		

【授業における到達目標】

高齢者の特徴をふまえて、高齢者がその人らしく自立した生活を営むために必要な援助技術を学ぶ

【授業の概要】

①高齢者の生活アセスメント ②高齢者のリスク管理 ③高齢者とのコミュニケーション ④高齢者への食事援助 ⑤高齢者への排泄援助 ⑥高齢者への清潔援助 ⑦高齢者の生活リズムを整える援助 ⑧災害時の高齢者への看護 について事例を用いたグループワークや演習を行うことが多い授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例に対する看護についてグループワークなどで意見交換を行い、全体発表を行うことで学びを深める
- ・事前に調べ学習を行った後に演習を行い、振り返りを行うことで学びを深める

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	高齢者の生活アセスメント
第2回	高齢者のリスク管理 「転倒」「廃用症候群」
第3回	
第4回	高齢者とのコミュニケーション
第5回	高齢者の食事のアセスメントと看護
第6回	
第7回	
第8回	高齢者の排泄のアセスメントと看護
第9回	
第10回	高齢者の清潔のアセスメントと看護 清潔のアセスメント
第11回	
第12回	事例に沿ったおむつ交換（演習）
第13回	
第14回	高齢者の生活リズムを整える援助
第15回	高齢者と災害看護

【試験・課題等の内容】

事例に沿った演習を行うため、計画の立案や技術練習などを行う

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
老年看護学 概論と看護の実践 NOUVELLE HIROKAWA

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会
国民の福祉と介護の動向 2019/2020 厚生労働統計協会

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。
ラーニングチャンネルなどの動画の視聴などを行う

専門分野Ⅱ

【科目】 老年看護方法論Ⅱ

【単位数・時間】 1 単位 30 時間

【担当講師】 草原 麻紀¹⁾、梶原 尚子²⁾、中島 将清³⁾、吉村 淑子⁴⁾

【開講時期】 第 1 学期 【配当年次】 2 年

【所属・職位等】 1) 専任教員、 2) 整形外科病棟 看護師、
3) 一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院 精神科医師
4) 医療法人 如月会 若草病院 地域医療連携室課長

【授業における到達目標】

- ・健康障害を持つ高齢者及び家族の状態を理解し、状態に応じた看護の方法を理解する
- ・認知症、うつを持つ高齢者及び家族の状態を理解し、状態に応じた看護の方法を理解する

【授業の概要】

- ・健康障害のある高齢者への看護として、①検査・治療を受ける高齢者の看護 ②白内障のある高齢者への看護 ③終末期にある高齢者への看護 ④高齢者の生活アセスメントについて授業を行う。高齢者の生活アセスメントについては事例を用いて看護過程の展開を行う
- ・認知症やうつ病の病状や高齢者への看護について講義を中心に授業を行う

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いて高齢者の生活アセスメントを行い、看護の焦点を明確化し計画を立案する

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師
第 1 回	検査を受ける高齢者の看護、感覚機能障害の看護	草原
第 2 回	治療を受ける高齢者の看護	
第 3 回	入院、退院時の高齢者の看護	
第 4 回	終末期にある高齢者の看護	
第 5 回	事例から考える健康障害と高齢者の特徴から起こりうる生活への影響	
第 6 回	高齢者看護の考え方 生活行動モデルについて	
第 7 回	関連図と看護の焦点化	
第 8 回	高齢者の自己効力感、セルフケア援助	
第 9・10 回	保存的療法を受ける患者の看護 ギプス固定・牽引療法	梶原

第 11 回	外科的療法を受ける患者の看護	
第 12 回	認知症 脳血管性認知症、アルツハイマー病、ピック病、レビー小体型認知症	中島
第 13 回	精神障害 うつ状態、せん妄	
第 14 回	認知症の高齢者の看護	吉村
第 15 回	高齢者のうつと看護	

【試験・課題等の内容】

- ・健康障害のある高齢者の看護における事例展開は各自で学習を行い、追加・修正をする
- ・その他、講義の学びを深めるために事前学習を行う

【評価方法】

終了試験 75 点 、レポート（高齢者の看護）25 点

【テキスト】

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院

老年看護学 概論と看護の実践 NOUVELLE HIROKAWA

【参考文献】

生活機能からみた老年看護過程 + 病態・生活機能関連図 医学書院

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院

看護過程に沿った対症看護 学研

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器 医学書院

基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

授業の振り返りと次回の授業の準備で毎回1時間ほどの時間を要する事例展開を行うため疾患の学習やレポートの追加・修正を行う

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護学概論	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】小倉 裕香	【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員(看護師6年)		

【授業における到達目標】

- ・小児各期における発達段階の特徴と、小児及び家族を取り巻く環境を理解できる。
- ・小児看護における看護の役割について理解できる。

【授業の概要】

健康な小児の成長・発達について理解し、児が健やかに育つための支援について児と家族の特徴をふまえて理解できるよう教授する。講義では、VTR等も用いて児と家族がイメージできるよう授業を行っていく。また、授業後半では、小児看護に必要な看護技術としてバイタルサインや身体計測などの演習も行い、小児看護学実習で活かせるよう講義を展開する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークや生活援助に必要な看護技術を体験し、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを述べる機会や他者の考えを聞く機会を設ける。

【授業計画】

回数	内容・方法
1回目	小児看護の変遷と小児看護の役割
2回目	諸統計からみた小児と家族の健康課題 小児と家族を取り巻く社会
3回目	子どもの成長・発達 ・形態的・機能的発達 ・心理・社会的発達
4回目	乳児と家族の看護
5回目	幼児と家族の看護
6回目	学童期・思春期の児と家族の看護
7回目	子どもの主体性を育てる 子どものストレスコーピング
8回目	現代家族の特徴と家族の看護
9回目	子どもの事故防止と安全
10回目	子どもの看護技術の特徴 生活援助に必要な看護技術
11回目	生活援助に必要な看護技術
12回目	小児のバイタルサイン測定 【演習】
13回目	小児の身体計測
14回目	小児看護における倫理 小児看護における倫理的課題と看護
15回目	終了試験

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

筆記試験（配点：80点）、課題レポート（配点：20点）

【テキスト】

小児看護学概論―子どもと家族に寄り添う援助― 改訂第3版 南江堂

小児看護技術―子どもと家族の力をひきだす技― 改訂第3版 南江堂

写真でわかる小児看護技術 ―小児看護に必要な臨床技術を中心に―、インターメディカ
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15時間

1. 小児看護学に関するナーシングチャンネルを事前に視聴する。

2. DVDを視聴し、小児の成長・発達についてイメージ化して理解する。

「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～0歳児」

「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～1・2歳児」

「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～3・4・5歳児」

3. 生活援助に必要な看護技術に向けた課題への取組み、技術練習

4. 小児のバイタルサイン測定、小児の身体計測に向けた事前課題と技術練習

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護方法論Ⅰ（疾患・治療・検査） 【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】柳邊 秀一 他
【開講時期】通年 【配当年次】2年
【所属・職位等】小児科医長、周産期・母子医療副センター長

【授業における到達目標】

小児の成長・発達及び各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。

【授業の概要】

小児の正常な身体の成長・発達をふまえ、小児に特有の各疾患の病態・症状・診断・治療について教授し、小児看護学方法論Ⅱで学ぶ健康障害をもつ小児の看護につなげていく。

【アクティブラーニング】

事前学習を行い授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
1回目	正常な身体の成長・発達、形態的・機能的発達
2回目	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常：ダウン症候群
3回目	代謝系疾患：Ⅰ型小児糖尿病
4回目	循環器系疾患：ファロー四徴症、川崎病、乳幼児突然死症候群
5回目	呼吸器系疾患：肺炎
6回目	膠原病・アレルギー疾患：小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎
7回目	腎・泌尿器系疾患：ネフローゼ症候群、ウィルムス腫瘍
8回目	感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎
9回目	感染症：急性灰白髄炎、流行性髄膜炎、手足口病
10回目	運動器系疾患：先天性股関節脱臼
11回目	内分泌系疾患：成長ホルモン分泌不全性低身長症
12回目	血液・造血器系疾患：血友病
13回目	脳神経系疾患：脳性麻痺
14回目	精神疾患：発達障害、神経症性障害
15回目	事故・外傷：頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

【参考文献】

小児疾患診療のための病態生理 1 改訂 5 版（小児内科 2014 年 46 巻増刊号）

小児疾患診療のための病態生理 2 改訂 5 版（小児内科 2015 年 47 巻増刊号）

小児疾患診療のための病態生理 3 改訂 5 版（小児内科 2016 年 48 巻増刊号）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15 時間（900 分）

1. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病について理解する。
 - Vol. 1 喘息発作で入院した小児の看護事例
 - Vol. 3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例
 - Vol. 5 川崎病で入院した小児の看護事例
2. 小児に特有な各疾患の病態・症状・診断・治療の理解を深めるための学習

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護方法論Ⅱ

【単位数・時間】2単位(45時間)

【担当講師】田代 郁代¹⁾、天神 香²⁾、山田 恵³⁾、柚木崎 奏恵⁴⁾、小倉 裕香⁵⁾

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】1)副看護師長 2)副看護師長 3)新生児集中ケア認定看護師 4)看護師
5)専任教員(看護師6年)

【授業における到達目標】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴と必要な看護について理解できる。

【授業の概要】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴について、代表的な疾患を用いながら講義・演習を交えて授業を展開する。各疾患については、小児看護方法論Ⅰで学んだことを活用し、VTR等も用いて健康障害をもつ小児をイメージ化できるように授業を行っていく。

【アクティブラーニング】

グループディスカッションやロールプレイ、討議により自ら思考する機会とする。

【授業計画】

回数	内容(方法)		授業形態	担当
1	病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護	1)各発達段階にある子どもの病気の理解 2)子どもと家族に影響を及ぼす要因 3)病気や入院に対する子どもの反応と家族への援助	講義	田代
	入院中の子どもと家族の看護	1)入院環境と看護の役割 2)入院中の小児と家族の特徴と看護	講義	
2	外来における看護	1)小児外来の種類 2)一般外来における看護 3)健康増進のための外来における看護 4)継続的なケアを行う専門外来における看護 5)小児救急外来における看護	講義	
	隔離が必要な子どもと家族の看護	1)隔離の目的・方法 2)身体的・心理社会的影響 3)発達段階に応じた援助 4)家族の援助	講義	
3	災害時の小児と家族の看護	1)被災地の環境と看護の役割 2)災害時の小児と家族の看護	講義	
	心のケアが必要な子どもと家族の看護	1)子どもの心の反応とその特徴 2)治療及び支援 3)社会資源の活用	講義	
4	活動制限が必要な子どもと家族の看護	1)活動制限の目的 2)身体的・心理的影響 3)発達段階に応じた援助 4)家族の援助	講義	
5	在宅療養中の小児と家族の看護	1)小児と家族をとりまく社会資源 2)学校における看護の役割 3)在宅療養中の小児と家族の看護	講義	田代

回数	内容（方法）		授業形態	担当
	先天的な問題を持つ子どもと家族の看護	1) 先天性障害を持つ子どもと家族の特徴 2) 発達段階に応じた援助 3) 家族への看護	講義	
6	小児がんの子どもと家族の看護	1) 確定診断から治療開始までの子どもと家族の看護 2) 治療を受けている小児と家族の看護 3) 退院を控えた小児と家族の看護 4) 再燃・再発時の看護	講義	
7	急性期にある子どもと家族の看護	1) 急性的な経過をたどる疾患の特徴 2) 生命徴候が危険な状況にある小児と家族への援助	講義	天神
8		3) 小児救急におけるトリアージと対応 4) 救命処置を受ける小児と家族の不安の緩和		
9	周手術期における小児と家族の看護	1) 小児の手術の特徴 2) 手術を要する健康障害と手術の時期 3) 計画手術と緊急手術 4) 日帰り手術 5) 小児と家族の看護 (1)小児の痛みに対する理解、表現 (2)痛みの客観的評価と痛みの緩和への援助	講義	
10	慢性期にある小児と家族の看護	1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 2) 病気による小児と家族の生活の変化 3) 小児と家族の看護 (1)依存的セルフケア (2)ストレス対処行動への支援	講義	
11	終末期にある小児と家族の看護	1) 小児の死の概念 2) 死に対する小児の反応と援助 3) 小児と家族の看護 4) 小児をなくした家族の援助	講義	
12	検査や処置を受ける子どもと家族の看護	1) 子どもの検査・処置の特徴 2) 検査・処置を受ける子どもの反応 3) 検査・処置を受ける小児の安全・安楽への援助 4) 検査・処置を受ける小児の家族への援助	講義	
13	低出生体重児と家族の看護	1) 低出生体重児の特徴 2) 低出生体重児の看護の原則と看護の実際 (1) 胎外生活への適応の促進 ①体温管理（保育器の取り扱いを含む） ②呼吸・循環管理 ③感染予防 (2) 成長・発達の促進 ①ポジショニング ②環境調整 ③継続支援 (3) 家族への看護 3) 先天性疾患のある児と家族の看護	講義	山田
14				
15	重症心身障害児（者）とその家族の看護	1. 重症心身障害児（者）及び家族の特徴と看護 ①ポジショニング ②食事 ③清潔・衣生活 ④排泄	講義	柚木崎

回数	内容（方法）		授業形態	担当
		・療育 ・安全管理（環境、感染、事故防止、災害時対応）		
16		2. 在宅療養に向けた重症心身障害児（者）と家族の看護 ・入院生活から在宅移行に向けた支援 ・学校との連携 ・多職種の連携と社会資源活用 ・在宅で生活する小児のケア		
17		重症心身障害児（者）とその家族の看護の実際	校外実習	
18	健康障害のある小児の看護 (看護過程の展開)	1. ネフローゼ症候群の患児の看護 ・小児の看護過程とは ・行動のアセスメント	講義	小倉
19		2. ネフローゼ症候群の患児の看護 ・事例の全体像の把握	講義	
20		3. ネフローゼ症候群の患児の看護 ・看護診断・看護計画の立案	講義	
21		4. 腎生検を受ける患児の看護	講義	
22		5. 腎生検を受ける患児の看護 ・プレパレーションを取り入れた検査の説明、検査の援助	演習	
23		評価	筆記試験	

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

筆記試験（配点：80点）

課題レポート及びプレパレーションの演習評価（配点：20点）

【テキスト】

小児看護学概論—子どもと家族に寄り添う援助— 改訂第3版 南江堂

小児看護技術—子どもと家族の力をひきだす技，改訂第3版 南江堂

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

写真でわかる小児看護技術 改訂第3版：小児看護に必要な臨床技術を中心に，インターメディカ

【授業外における学修方法及び時間】

1. 小児看護学に関するナーシングチャンネルを事前に視聴する。
2. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病の患児の看護について理解する。
 - Vol.1 喘息発作で入院した小児の看護事例
 - Vol.3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例
 - Vol.5 川崎病で入院した小児の看護事例

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護学概論	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】小原まゆみ	【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【職務経験】助産師20年	

【授業における到達目標】

1. 母性の概念と母性看護の役割を理解できる。
2. 母性各期の特徴を理解し、健康の保持増進のための保健の必要性を理解できる。
3. 生命と倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。

【授業の概要】

広い視野で母性看護の役割や生命倫理について学べるように教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・ ニュースや新聞記事を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・ 授業においては、自らの考えを発言する機会が多くする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	1. 母性看護学の位置づけ 1) 母性看護学とは 2) 母性看護学と他看護学との関連	
第2・3・4回	2. 母性看護の概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシャリティ 4) リプロダクティブヘルス・ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 8) 母性看護における安全・事故防止	
第5・6・7回	3. 母性看護の変遷と展望 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護に関する統計 3) 母性看護に関する法律や制度	
第8・9回	4) 母性をとりまく社会の現状と課題 5) 母性保護の意義 6) 母性看護活動における看護職者の役割	
第10回	4. ライフサイクル各期の特徴と看護	

11・12回	1) ライフサイクルにおける女性の健康課題と看護の必要性 2) 思春期・成熟期の健康課題と看護 (1) 月経に関する健康課題 他 3) 更年期・老年期の健康課題と看護 (1) 更年期障害 他	
第 13・14・15回	5. リプロダクティブヘルスケア 1) 人間の性と生殖 2) 家族計画 3) 性感染症 4) HIV/AIDS 5) 人工妊娠中絶 6) 喫煙女性の健康と看護 7) ドメスティックバイオレンス・児童虐待と看護 8) 国際化社会と看護	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 80% 課題レポート 20%

【テキスト】

系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院

【参考文献】

病気が見える 9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病気が見える 10 産科 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

5・6	2. 分娩の要素	1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序	西畑
7・8	2. 産婦の理解と看護	1) 分娩の経過 (1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 (2) 産痛 (3) 胎児に及ぼす影響 (4) 産婦の心理社会的変化 2) 産婦・胎児・家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態アセスメント (2) 産婦と家族の心理社会面のアセスメント (3) 産婦・家族における看護上問題点の明確化 3) 産婦と家族の看護 (1) 産婦のニーズと看護目標 (2) 安全分娩への看護 (3) 安楽な分娩への看護 (4) 出産体験が肯定的になるための看護 (5) 基本的ニーズに関する看護 (6) 家族発達を促す看護 4) 分娩期の看護の実際 (1) 分娩第1期の活動期の看護 (2) 分娩第1期の活動期終盤の看護 (3) 分娩第2期の看護 (4) 分娩第3・4期の看護	西畑
9	3. 産褥経過	1) 産褥の定義 2) 産婦の復古現象 3) 乳汁分泌 4) 全身の変化	西畑
10・11	4. 褥婦の理解と看護	1) 褥婦のアセスメント (1) 産褥経過の診断 (2) 褥婦の健康状態のアセスメント 2) 褥婦と家族の看護 (1) 身体機能回復及び進行性変化への看護 (2) 児との関係確立への看護 (3) 育児技術に関わる看護 (4) 家族関係再構築への看護 3) 退院後の看護 (1) 育児不安と育児支援 (2) 職場復帰	西畑
12	5. 新生児の生理	1) 新生児の生理 2) 新生児の健康診断	山田
13・14	6. 新生児の理解と看護	1) 新生児のアセスメント (1) 新生児の診断 (2) 新生児の健康状態のアセスメント 2) 新生児の看護 (1) 出生直後の看護 (2) 出生後から退院までの看護	山田
15	7. 母性看護学における看護の特徴	1) ウェルネス診断 2) セルフケア確立に向けた援助 3) 愛着形成・役割獲得に向けた看護目標・看護計画	小原
16・17	8. 妊娠期の看護	1) 妊婦のアセスメント 2) 妊婦の看護 (演習) ※技術演習 レオポルド触診法 腹囲・子宮底測定	小原
18	9. 分娩期の看護	1) 産婦のアセスメント 2) 産婦の看護 (演習)	小原
19・20・21	10. 産褥期・新生児の看護	1) 褥婦のアセスメント 2) 新生児のアセスメント 3) 褥婦と新生児の看護 ※技術演習 新生児の沐浴 妊産褥婦を対象とした学習支援	小原
22	11. ハイリスク妊婦・褥婦の看護	1) ハイリスク妊婦のアセスメントと看護 2) ハイリスク褥婦のアセスメントと看護 3) まとめ	小原
23		終了試験	小原

		技術チェック：沐浴	小原
--	--	-----------	----

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

沐浴の技術チェックは合格をもって単位習得とする。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院

系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版

【参考文献】

写真でわかる 母性看護技術 インターメディア

病気が見える9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病気が見える10 産科 メディックメディア

ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

ナーシングチャンネルの視聴

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護方法論Ⅱ 【単位数・時間】1単位(30時間)
 【担当講師】徳永 修一¹⁾ 萬壽 裕子²⁾ 岩切 邦子³⁾
 【開講時期】第2学期 【配当年次】2年
 【所属・職位等】1)産婦人科医長、周産期・母子医療センター長 2)副看護師長 2)3)助産師

【授業における到達目標】

妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常な経過をたどる対象を理解し、適切な看護の知識と援助方法を学ぶ。

【授業の概要】

遺伝相談と看護、不妊治療と看護、妊娠の異常と看護、分娩の異常と看護、新生児の異常と看護、産褥の異常と看護、児を亡くした褥婦と家族の看護、精神障害がある妊婦・産婦・褥婦の看護、継続看護（妊娠期から産褥期にかけて）を解説する。

【アクティブ・ラーニング】

【授業計画】

回数		題目	内容・方法	備考
第1回	異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム	1.遺伝相談	1)遺伝相談とは 2)出生前診断 3)出生前診断の実際 4)着床前診断 5)胎児治療と遺伝子治療	徳永他
		2.不妊治療	1)不妊とその原因 2)不妊検査 3)不妊治療	
第2回		3.妊娠の異常	1)ハイリスク妊娠(妊娠糖尿病を含む) 2)妊娠期の感染症 3)妊娠疾患(妊娠悪阻を含む) 4)多胎妊娠 5)妊娠持続期間の異常 6)妊娠合併症 7)子宮外妊娠 8)胎児および附属物の異常	徳永他
第3回		4.分娩の異常	1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害(胎位・胎向・回旋の異常) 4)胎児の付属物の異常 5)分娩時損傷 6)分娩第3期および分娩直後の異常 7)分娩時異常出血と処置 8)産科処置と手術(分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術)	徳永他

回数		題目	内容・方法	備考
第4回		5.新生児の異常	1) 新生児仮死 2) 新生児呼吸窮迫症候群 3) 分娩外傷 4) 低出生体重児 5) 新生児溶血性黄疸	徳永他
第5回		6.産褥の異常	1) 産褥熱 2) 支給復古不全 3) 乳房・乳頭の異常 4) 産褥血栓症 5) 精神障害	徳永他
第6回	異常な妊娠・ 分娩・産褥の 看護	1. 遺伝相談と看護 2. 不妊治療と看護	1) 出生前診断を受ける人への看護 1) 不妊治療を受けている対象の心理・社会的特徴 2) 不妊夫婦の看護	岩切
第7・8回		3. 妊娠の異常と看護	1) ハイリスク妊娠(妊娠糖尿病を含む) 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患(妊娠悪阻を含む) 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 妊娠合併症 7) 子宮外妊娠 8) 胎児および附属物の異常	岩切
第9・10回		4. 分娩の異常と看護	1) 分娩の異常時の看護 2) 産科処置と手術(分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術)時の看護 3) 異常のある産婦の看護 (1)破水が生じた産婦の看護(前期破水) (2)分娩遷延のリスクがある産婦の看護 (3)胎児ジストレスを生じる恐れのある産婦の看護 (4)急速遂娩の産婦の看護 (5)緊急帝王切開を受ける産婦の看護 (6)分娩時異常出血のある産婦の看護	岩切
第11回		5. 帝王切開を受ける対象の看護	1) 妊娠期(産前) 2) 手術中 3) 産褥期(術後)	萬壽
第12回		6. 新生児の異常と看護	1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症	萬壽
第13回		7. 産褥期の異常と看護	1) 産褥熱 2) 子宮復古不全 3) 乳房・乳頭の異常 4) 産褥血栓症 5) 精神障害	萬壽
第14回		8. 子をなくした褥婦・家族の看護 9. 精神障害がある妊婦・産婦・褥婦の看護	1) グリーフケア 1) マタニティーブルー 2) 産後うつ病	萬壽
第15回		10. 継続看護(妊娠期から産褥期にかけて)	1) 女性のライフサイクルと周産期の看護 2) 妊娠・分娩・産褥期の継続看護	松本

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院

【参考文献】

病が見える 9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病が見える 10 産科 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護学概論	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】田上 博喜	【開講時期】通年 【配当年次】1年
【所属・職位等】宮崎大学医学部看護学科 地域・精神看護学講座 助教	

【授業における到達目標】

精神の健康（メンタルヘルス）と病の概念や心の発達と社会生活における危機的状況を学習し、精神的健康の保持増進と精神障害を持つ人々の歴史や社会的環境について理解する。また、精神看護の基本的な機能とケアの原則について理解する。

【授業の概要】

1. 精神の健康と病の概念を述べることができる。
2. 精神保健医療福祉の精神障害者の処遇と、歴史と変遷について述べるができる。
3. 心理的ストレス・危機に関する代表的な理論を列挙し類別することができる。
4. 現代における精神保健、医療現場や大学など様々な場における精神保健の在り方や看護の特性について記述することができる。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	講義名	内容（方法）
第 1 回	「精神看護学」で学ぶこと①	1) 精神保健で扱われる現象 2) 精神的健康の保持・増進としての精神保健 3) 地域精神保健
第 2 回	「精神看護学」で学ぶこと②	「精神看護」の分野について (1) 精神看護とは (2) 精神看護の役割の広がり (3) 精神看護の専門性
第 3 回	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	1) 精神医療の歴史 (1) 諸外国における精神医療の歴史と現在 (2) 日本における精神医療の歴史と現在 2) 精神障害をもつ人を守る法・制度 3) 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 (1) 入院医療の形態 (2) 入院患者の処遇と権利擁護
第 4 回	精神（心）の危機状況と精神保健	1) 危機とは何か？：危機理論・危機モデル 2) ストレスとコーピング 3) 適応と不適応（適度なストレス状況とは） 4) セルフマネジメント
第 5 回	「精神(心)」のとらえかた・考え方①	1) 脳の構造と認知機能 (1) 脳・神経の構造 (2) 認知機能と神経基盤

回数	講義名	内容（方法）
		(3) 大脳皮質の機能区分 2) 精神（心）の構造とはたらき (1) さまざまな心理学的理論の発展
第 6 回	「精神(心)」のとらえかた・考え方②	3) 精神（心）の発達に関する主要な考え方 (1) 人格の発達理論とそれぞれの意義
第 7 回	家族と精神(心)の健康	1) 家族の機能 2) 家族ライフサイクル 3) 家族システム

【評価方法】

科目終了時客観試験 100 点（課題レポート評価 出席状況〔講義・演習への参加状況を含む〕）

【テキスト】

新体系 看護学全書 1 精神看護学 精神看護学概論・精神保健 （メヂカルフレンド社）

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎（医学書院）
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護方法論Ⅰ 【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】中島 将清 【開講時期】第1学期 【配当年次】2年
【所属・職位】一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院 精神科医師

【授業における到達目標】

精神疾患の病態、検査、治療を理解し、精神障害者を理解することができる。

【授業の概要】

1. 精神疾患にみられる症状が理解できる。
2. 精神疾患と検査が理解できる。
3. 精神疾患の治療法が理解できる。
4. 小児・青年期の精神障害が理解できる。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に発問・討議するため、自らの意見を述べる。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	精神疾患にみられる精神症状	
第2回	精神疾患の検査 生物学的検査、心理学的検査	
第3回	精神疾患の病態と治療 統合失調症	
第4回	精神疾患の病態と治療 気分障害	
第5回	精神疾患の病態と治療 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	
第6回	精神疾患の病態と治療 器質性精神障害	
第7回	精神疾患の病態と治療 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
第8回	小児・青年期の精神障害、愛着障害	

【試験・課題等の内容】

試験範囲は、授業の全範囲

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

本単元は 30 時間の自己学習を必要とする科目である。したがって、授業中に提示する課題に取り組むこと。

専門分野Ⅱ

【科目】精神看護方法論Ⅱ	【単位数・時間】2単位(45時間)
【担当講師】中山 秋子 ¹⁾ ・田上 博喜 ²⁾ ・後藤 広行 ³⁾	
【開講時期】第2学期	【配当年次】2年
【施設・職位】	1) 一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院 看護部長
	2) 国立大学法人宮崎大学医学部看護学科 助教
	3) 都城医療センター附属看護学校 教員(看護師16年)

【目的】

精神障害を持つ人とその家族の理解と看護ケアについて理解できる。

【目標】

1. 精神障害をもつ人との関係形成の基本について理解できる。
2. 精神障害をもつ人の看護援助の展開について理解できる。
3. 精神疾患・症状をもつ人の看護の基本が理解できる。
4. 精神障害をもつ人の地域生活の支援について理解できる。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に発問・討議するため、自らの意見を述べる。

課題レポートに取り組む。

【授業計画】

回数	内容・方法		担当
第1回	コミュニケーションの特徴と看護	精神障害をもつ人とのコミュニケーション	後藤
第2回		精神障害をもつ人との関係の振り返り	
第3回	看護過程展開と看護	情報収集とアセスメントの視点	田上
第4回		情報収集とアセスメントの視点	
第5回		目標設定、計画立案、実施、評価の視点	
第6回		目標設定、計画立案、実施、評価の視点	
第7回		セルフケアの援助	
第8回		患者による自己管理への支援	
第9回	精神疾患・症状をもつ人の看護	精神科病棟の特徴と看護 治療的環境の整備、事故防止と安全管理、人権擁護の実際	中山
第10回		統合失調症を患者の看護	

第11回		気分障害をもつ患者の看護	中山
第12回		神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害をもつ人の看護	
第13回		器質性精神障害、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群をもつ患者の看護	
第14回		小児・青年期の精神障害患者の看護 愛着障害をもつ人の看護	
第15回		身体合併症を持つ患者の看護	
第16回	経過期の看護	急性期の看護	後藤
第17回		回復期の看護	
第18回		慢性期の看護	
第19回	日常生活、 地域生活の 支援	日常生活行動の援助	後藤
第20回		地域精神保健福祉の考えかた	
第21回		社会参加の支援と他職種の連携	
第22回		地域生活支援の実際	
第23回		精神障害をもつ人の家族の支援	

【試験・課題等の内容】

試験範囲は、授業の全範囲

【評価方法】

終了試験・課題レポート

【テキスト】

新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社

新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

本看護学テキスト NiCE 病態・治療論12 精神疾患 南江堂

【授業外における学修方法及び時間】

45時間の自己学習を必要とする科目である。したがって、授業中に提示する課題に取り組むこと。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学実習

【単位数・時間】2単位（90時間）

【担当講師】外村由美子

【開講時期】通年

【配当年次】2年～3年

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師15年

【授業における到達目標】

1. 生活調整または生活の再構築を必要とする成人期の患者及び家族の特徴について理解する
2. 生活調整または生活の再構築を必要とする成人期の患者に看護を実践できる
3. 看護実践における自己の行動を振り返り、看護観を深め自己の課題を明確にする
4. 医療チームの一員であることを自覚して看護者として倫理的な行動がとれる

【授業の概要】

生活の再調整では、生活のあり様が深くかかわっており、症状のコントロールのために自らの責任と判断で生活を調整し、治療を継続しながら、健康を維持していくことを支援するための看護について学習する。生活の再構築では、失った機能への回復・リハビリテーションへの支援として自己の能力を最大限発揮できる方法を習得することや、障害を認識していく過程を支援するための看護について学習する。

生活調整を必要とする成人期の患者または生活の再構築を必要とする成人期の患者の看護を実施できる能力を養う。

【実習期間】

2019年2月12日～2019年10月25日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・泌尿器科外来・整形外科外来
5病棟・血液内科外来・リンパ浮腫外来
ストーマ外来

【授業計画】

詳細は、成人看護学実習Ⅰ要項参照

【評価方法】

評価規準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習・血糖測定技術の実施。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】船木 見奈子

【所属・職位等】専任教員

(看護師 11年)

【授業における到達目標】

1. 生命危機状態にある成人期の患者の身体的特徴について理解できる。
 - 1) 術前の患者の身体的特徴について述べるができる
 - 2) 術後の患者の身体的特徴について述べるができる
2. 生命危機状態にある成人期の患者と家族の心理・社会的特徴が理解できる。
 - 1) 術前の患者・家族の心理的・社会的特徴について述べるができる
 - 2) 術後の患者・家族の心理・社会的特徴について述べるができる
3. 生命危機状態にある成人期の患者の術前・術後の回復を促進させるための援助が実施できる。
 - 1) 術前の身体的・心理的援助ができる
 - 2) 術中患者に行われている治療・処置・看護の実際について考察することができる
 - 3) 術後に術後合併症予防に向け援助ができる
 - 4) 術後に患者・家族に対する心理的・社会的援助ができる
 - 5) 観察・実施した看護の結果を振り返り、看護目標、看護計画に沿って、看護評価ができる
4. 医療チームの一員であることを自覚して看護者として責任ある行動がとれる。
 - 1) 保健医療チームとしてチーム医療についての行動を述べるができる
 - 2) 周手術期なる対象及び家族に対して倫理的配慮ができる
 - 3) 医療チームとしての責任やタイミングを考えた報告・連絡・相談ができる
 - 4) グループ内でのリーダーシップ、フロアシップを果たすことができる
 - 5) 身だしなみが整えられている
 - 6) 記録物の期限を守り計画的に提出できる
 - 7) プライバシーの保持に努めることができる
 - 8) 看護に対して関心を持ち、自己表現できる

【授業の概要】

病棟において周手術期にある患者と家族とのかかわりをとおして、手術前から退院するまでの看護について学ぶ。

【実習期間】

2019年2月12日～2019年10月25日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 3病棟

【授業計画】

詳細は、成人看護学実習Ⅱ実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。

2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。

専門分野Ⅱ

【科目】成人看護学実習Ⅲ

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】間宮 みどり

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師12年

【授業における到達目標】

1. 治癒困難な状態にある成人期の患者及び家族の特徴について理解できる。
 - 1) 治癒困難な状態にある成人期の患者の特徴が理解できる。
 - 2) 治癒困難な状態にある成人期の家族の特徴が理解できる。
2. 治癒困難な状態にある成人期の患者の緩和ケアおよび終末期看護が実践できる。
 - 1) 全人的苦痛に対する緩和ケアおよび最期までよりよく生きることを支える終末期看護を実践できる。
 - 2) 人としての尊厳を支えるケアを実践できる。
 - 3) 自己の死生観を深めることができる。
3. 医療チームの一員であることを自覚して看護者として倫理的な行動がとれる。
 - 1) 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。
 - 2) 看護に対する探求心や関心を持ち、主体的に学習できる。

【授業の概要】

病棟において治癒困難な状態にある患者と家族とのかかわりをとおして、全人的苦痛に対する緩和ケアおよび最期までよりよく生きることを支える終末期看護について学ぶ。

【実習期間】

2019年2月12日～2019年10月25日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 5病棟

【授業計画】

詳細は、成人看護学実習Ⅲ実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。

専門分野Ⅱ

【科目】 老年看護学実習Ⅰ

【単位数・時間】 2単位(90時間)

【開講時期】 後期

【配当年次】 2年

【担当講師】 ①草原 麻紀 ②後藤 広行 【所属・職位等】 専任教員

【実務経験】 ①看護師 11年、②看護師 16年

【授業における到達目標】

1. 地域で生活している高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる
2. 高齢者の QOL の向上を目指した援助が実践できる
3. 高齢者に関わる保健・医療・福祉施設の機能・連携とメンバーの役割について理解することができる。
4. 自己の老年観を深めることができる

【授業の概要】

シルバー人材センターや介護老人福祉施設・介護老人保健施設、デイサービス・デイケア、グループホームなど地域で生活している高齢者やその家族との関わりをとおして、地域で生活する高齢者の特徴を理解し、日常生活を支える看護を実践する

【実習期間】

2019年11月25日～12月13日の12日間

【実習施設】

都城市シルバー人材センター

<介護老人福祉施設>

社会福祉法人 常緑会 特別養護老人ホーム 星空の都なかごう

社会福祉法人 恵愛会 特別養護老人ホーム 恵寿苑

都城市社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 白寿園

社会福祉法人 常緑会 特別養護老人ホーム 星空の都みまた

社会福祉法人 観音の里 特別養護老人ホーム 高城園

宮崎県社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 霧島荘

<介護老人保健施設>

医療法人 魁成会 こんにちわセンター

<デイサービス>

社会福祉法人 常緑会 星空の都 デイサービスセンターなかごう

社会福祉法人 恵愛会 恵寿苑 デイサービスセンター

都城市社会福祉事業団 庄内デイサービスセンター

社会福祉法人 常緑会 星空の都 デイサービスセンターみまた

社会福祉法人 観音の里 高城園デイサービスセンター

高齢者総合支援センターきりしま 霧島荘デイサービスセンター

<デイケア>

医療法人 魁成会 こんにちわセンター

<グループホーム>

有限会社 未来企画 グループホーム オルゴール

社会福祉法人まりあ グループホーム まりあ

社会福祉法人 常緑会 グループホーム ふるさと

社会福祉法人 恵愛会 グループホーム めぐみ

【授業計画】

詳細は、老年看護学実習 I 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100 点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち高齢者や地域で生活する高齢者の身体・精神・社会的側面の理解を深めるための学習を行う。
2. 受け持ち高齢者に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】 老年看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】 2 単位(90 時間)

【開講時期】 通年

【配当年次】 2 年・3 年

【担当講師】 ①後藤 広行 ②草原 麻紀

【所属・職位等】 専任教員

【実務経験】 ①看護師 16 年、②看護師 11 年

【授業における到達目標】

1. 高齢者の加齢変化と健康障害が生活に及ぼす影響を理解することができる
2. 高齢者の言動・行動、生活背景から心理的側面を理解することができる
3. 高齢者が地域で生活するためのフォーマル・インフォーマルサポートの必要性を理解することができる
4. 高齢者の加齢変化や健康障害から引き起こされる二次障害や合併症を予防するための援助を実践できる
5. 高齢者・家族の意向や残存機能を活かし、自立へ向けた援助が実践できる
6. 高齢者の退院後の生活を考慮し、家族や専門職との連携を踏まえた援助を実践できる
7. 高齢者を尊重し、自己決定を支える関わりができる
8. 高齢者の特徴から自らの老年観を述べることができる

【授業の概要】

健康障害のある高齢者やその家族との関わりをとおして、加齢変化や健康障害が日常生活に及ぼす影響について理解し、高齢者がその人らしく地域で生活していくことを支えるための看護を学ぶ。

【実習期間】

2019 年 2 月 12 日～2019 年 10 月 25 日のうち連続する 12 日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 在宅サポート病棟

【授業計画】

詳細は、老年看護学実習Ⅱ 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100 点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち高齢者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち高齢者に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】小児看護学実習

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】小倉 裕香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師6年

【授業における到達目標】

1. 小児看護学実習（健康な小児の理解）

- 1)健康な小児の個別の成長・発達について、身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。
- 2)健康な小児の成長・発達に応じた援助が実践できる。
- 3)保育園における健康教育と事故防止の実際を理解できる。
- 4)保健医療福祉チームの一員として、小児を尊重し、看護師の役割を自覚し責任ある行動を取ることができる。

2. 小児看護学実習（健康障害のある小児の看護）

- 1)健康障害のある小児の特徴について理解できる。
- 2)患児及び家族の健康障害に応じた看護が実践できる。
- 3)小児をとりまく保健医療福祉チームの連携と活用する社会資源を理解できる。
- 4)小児を尊重し、保健医療福祉チームの一員として、責任ある行動を取ることができる。
- 5)小児とその家族との関わりを通して、小児看護観を深めることができる。

【授業の概要】

小児看護学実習（健康な小児の理解）では、保育園・保育所において健康な小児とのかかわりをおとして、健康な小児の特徴や成長・発達に応じた援助について学ぶ。

小児看護学実習（健康障害のある小児の看護）では、病棟において健康障害のある児を担当し、患児と家族に対して、成長・発達及び健康障害に応じた看護について学ぶ。

【実習期間】

2019年2月12日～2019年10月25日のうち連続する12日間

【実習施設】

健康な小児の理解	社会福祉法人しらゆり福祉会 幼保連携型認定こども園 早水保育園
	社会福祉法人 都北保育園 とほく認定こども園
	社会福祉法人小鳩会 志比田こども園
	都城市立郡元保育所
健康障害のある小児の看護	独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・小児科外来

【授業計画】

詳細は、小児看護学実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患児の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患児に必要な看護技術の事前練習

専門分野Ⅱ

【科目】母性看護学実習

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】小原 まゆみ

【所属・職位等】専任教員

【職務経験】助産師 20年

【授業における到達目標】

1. 周産期にある対象の身体的特徴および心理・社会的特徴を理解できる。
2. 新生児の特徴が理解できる。
3. 周産期にある対象の健康上の課題を明らかにできる。
4. 周産期の対象の健康の維持増進に向けた援助を実践できる。
5. 新生児の安全・安楽な援助が実践できる。
6. 母子とその家族の愛着形成・役割の獲得に向けた看護が実践できる。
7. 対象と信頼関係の構築ができ、受け持ち母子の思いを尊重して看護できる。
8. 自己の母性観・父性観を深めることが出来る。
9. 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。
10. 看護に関する探究心や関心を持ち、主体的に学習できる

【授業の概要】

妊産褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族の健康を維持・増進するために必要な看護を学ぶ。

【実習期間】

2019年2月12日～2019年10月4日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 母子医療センター・新生児集中治療室

【授業計画】

詳細は、母性看護学実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち妊婦の病態及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児にまつわる必要な看護技術の事前練習
3. 褥婦の退院後の生活で利用可能な社会資源

専門分野Ⅱ

【科目】	精神看護学実習	【単位数・時間】	2単位（90時間）		
【担当講師】	高野 千絵	【開講時期】	通年	【配当年次】	2年 3年
【所属・職位等】	専任教員	【実務経験】	看護師8年		

【授業における到達目標】

1. 精神に障害のある患者の特徴を総合的に理解することができる
2. 精神障害のある患者のセルフケアの状態に応じた看護が実践できる
3. 精神障害のある患者とのコミュニケーションを通して患者—看護師関係を構築し、治療的環境の意義が理解できる
4. 医療チームメンバーの中での看護師の役割を理解できる
5. 医療チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

精神に障害のある患者及び家族を総合的に理解し、社会生活適応や自立に向けた看護を実践する

【実習期間】

2019年2月11日～2019年6月14日のうち連続する12日間

【実習施設】

一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院 6・7・8病棟

【授業計画】

詳細は、精神看護学実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、精神看護学実習要項参照